

机は不要である。椅子だけで一重の円をつくって行く。日本人は、学校教育の習性が身につき過ぎていからか、すぐにノートを取り出す。むしろそれよりもそのテーマに集中して考え、話し合うことに参加してほしい。ノートを取るのは自分の考えたことや、皆が出し合ったアイデアをメモ書きにする程度でいい。

●——自分との出会い、仲間との出会い

さて今回は第一ステージの紹介をしたい。第一ステージのテーマは以下のようである。

- (1) 出会い——分かち合うことの豊かさ
- (2) 出会い——私たちは三つの世界に生きる
- (3) 感情
- (4) 喜びと楽しみ
- (5) 怒り
- (6) 感動という宝物
- (7) 自分が好きですか——自分がイヤになるとき、好きになるとき
- (8) 自分が好きですか——自己受容の大切さ
- (9) ものの見方を変える——「福音」とは何か
- (10) コミュニケーション——私の中の三人の自分

は参加者同士が知り合うために、また、分かち合いを体験するためにもっとも良い方法であると思う。

二人一組のペアになってそれぞれ質問に答えていき、またペアを変えて次の質問に答える、というものである。一番大事なことは問いかけの内容である。質問は黒板にその都度一つずつ書いていくか、あらかじめ模造紙に書いておいたものを用意する。質問は次のようなものである。

- ・初めてここに参加して私は今、……………な気持ちを感じています。
 - ・最初の「静思のひととき」に私は、……………なことを思い描いていたり、感じていました。
 - ・最近私が感動したことは、……………ということですか。
 - ・最近私が気にしていることは、……………ということですか。
- 毎週、私は、……………をととても楽しみにしています。



- (11) コミュニケーション——聴くこと
- (12) コミュニケーション——素直で率直で誠実な会話のために

- (13) コミュニケーション——自己主張トレーニング
- (14) 「時間」という名の贈り物
- (15) フランクル「夜と霧」を読む

この目次を見て、これがキリスト教入門講座なのかと思う方も少なくないだろう。まず、「神の存在」から説きおこす従来の「公教要理」とはまったく異なったスタイルである。この段階で重視することは、「分かち合うことの喜び」であり、それによる本当の自分との出会い、そして仲間との出会いである。「分かち合いを可能にする雰囲気」が生まれれば、入門講座に毎回参加することが、それ自体喜びとなり、信仰体験そのものであるようになる。

●——初めての集まり

「初めての集まり」の進め方について説明しよう。「静思のひととき」「三分間生活報告」に続いて、今日のテーマ「出会い」について簡単に説明し「同心円エクササイズ」を行う。この作業（エクササイズ）

初めは周囲の声が気になって、ちょっと戸惑いを感じるのだが、そのうちに話が弾み、いつしか話しに熱中するようになる。そこがこの作業の不思議なところである。

作業が終わると必ず「見直し」をする。これをしていて何を感じ、何か気づいたことがあるか、話してもらおう。

分かち合いとは何かという説明があつて、「さあ、分かち合いをしましょう」というパターンをよくしてしまいがちである。でもこれではあまりうまくいかないことが多い。知らず知らずのうちに分かち合いをしていて、心を開いて話し合ってしまった後に「今したことが実は分かち合いなのです」というように振り返るほうがずっとうまくいく。

最後に「分かち合いの原則」について説明する。

一、考えや意見を聞くよりも、気持ち、感じていることを聴くことである。自分や相手のもつ気持ちを裁いてはならない。

二、主語は常に「私」である。「あなた」を主語にするとはそれは忠告であり、批判であり、時には相手を責めることになる。「あの人」を主語にするとは